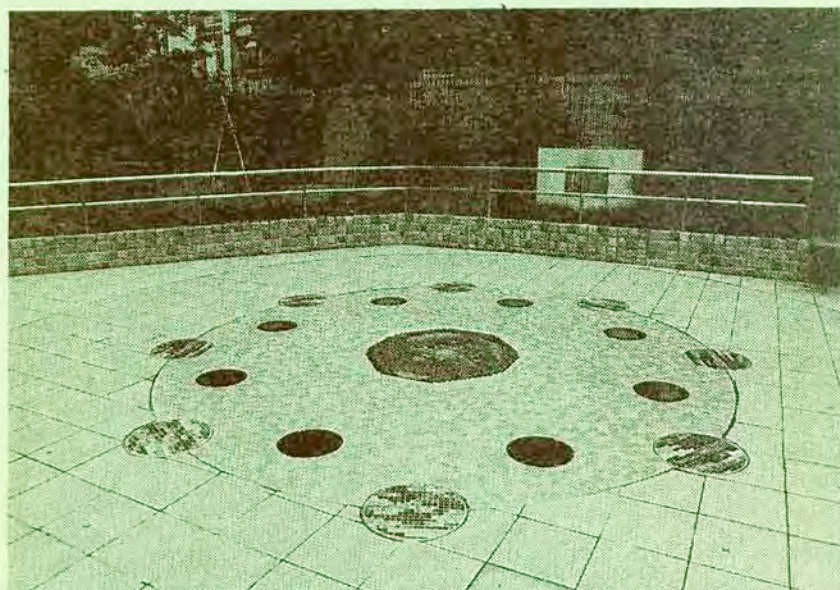


かたりべ 56

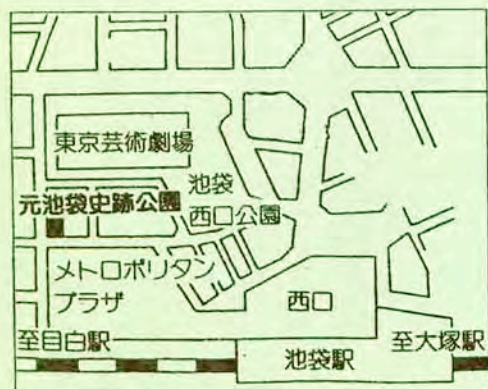
豊島区立郷土資料館だより



☆ここはどうかだったの？☆
今のまちの風景から、むかしの様子を想像してみませんか。想像できないくらい変わっているかもしれませんね。
左の写真は、今です。ここの場所のむかし、大正時代のころの様子は次のページでわかります。

上：西池袋一丁目9番 元池袋史跡公園 1999年10月撮影

下：案内図



タイルを敷きつめた広場にはガラスモザイクと特殊照明がはめ込まれていて、暗くなると輝きます。また、植栽のなかには二基の石碑が建てられ、長方形の石碑には「成蹊学園発祥之地」、先がとがった方の石碑には「池袋地名ゆかりの地」とあります。どちらもこの場所の来歴を伝えるものですが、かつてここに池がありそこから水が湧き出していたとは！今、当時の水辺をイメージしたものが作られています。どうぞ、立ち寄ってご覧ください。 【福岡】

まちを歩くーおとなのための地域史入門ー

最近、まちの歴史を探したい、知りた
いという方が増えています。そして、自
分が住む「身近なまちの歴史」に関心を
寄せる傾向がみられます。今回の展示は、
そのような方たちの手助けになればとい
うことから企画しました。

展示構成は、次の通りです。

一 小さな場所の大きな変化

歴史を紹介する第一歩として、区内二
三方所の場所を、写真と地図を使い、今
と昔を比べながら展示してみました。ま
ちの「今」を、「むかし」にさかのぼっ
て見ていく形でパネルを展示しています。
一カ所につき、三～五点の写真、あるい
は地図を使って紹介しました。そのなか
には、航空写真を使って、日常生活では
体験することのない目線から、その場
所の変化を見ることができました。

その結果、道を例にすると、ふだん自

分が歩いている道が、江戸時代からの道
筋と変わっていないことがわかりました。

どうも、耕地整理や道路の拡幅工事の対
象とはならなかったようです。その一方
で、全く江戸時代の面影を残さない道も
あります。ところで、最近の来館者が関
心を高めていることのひとつに、区内の
川があります(次頁を参照)。今まで開
催してきた講座の成果を盛り込んだ「豊
島区内の道と川」の地図も、見逃せない
展示資料です。

二 思い出を残し歴史を伝える

地域の歴史に関心を寄せ、そして自分
自身で調べ、それを記録し、次の世代に
伝えようとしていらっしゃる個人やグル
ープがあります。その方々による刊行物
を紹介しています。

三 地域史入門のために

今回、パネルで紹介した内容は、当館

発行の本で学習することができます。そ
れは、特別展の『図録』や『資料集』を
もとにしているからです。身近な歴史を
知るための材料として、大いに活用して
いただきたいと思います。

◇一〇月三〇日、十一月二七日、土曜日、
二～三時、展示説明会をします。



1918(大正7)年当時の様子。『豊島区50年のあゆみ』1982年

地域史講座「失われた水辺を探る―水窪川・谷戸川跡を歩こう―」を終えて

「とてももうきうきする講座でした。自分の住んでいる所の地形はどうだったのか、ずっと知りたいと思っていたので、スッキリしました。これからの総合的な学習に役立ちそうです。」（49才女性）

これは、講座に参加された区立小学校教師の感想です（アンケートより）。

資料館では、10月2日・9日・16日に毎年恒例の地域史講座を開催しました。

今回は、10年前に好評だった「弦巻川・谷端川跡を歩こう」の第2弾として、かつて区内を流れていた水窪川（水久保川・日の出川）と谷戸川（谷田川・藍染川）をとりあげ、今は暗渠となった川の跡を實際にたどりながら、流域の景観と暮らしについて見つめ直してみました。

これらの川は地元でも知る人が少ないため反響が心配でしたが、募集を始めるのと定員20名を10名程上回る申込みがあり、地域への関心の高さに驚きました。

2日のオリエンテーションでは、武蔵

野台地の東端に位置する豊島区の地形と

川の関係を、地図を用いて学習しました。

9日の「水窪川跡を歩こう」では、美久

仁小路（東池袋1）から護国寺・音羽を

通り、江戸川橋（文京区）にいたる約4

kmを歩きました。16日の「谷戸川跡を歩

く」では、中央卸売豊島市場（巣鴨5）

から駒込、田端（北区）、谷中・根津（

台東区）を通り、上野不忍池にいたる約

6kmを歩きました。参加者（25名）は、

「しおり」を片手に見学ポイントを確認

しながら、景観の急激な変化に驚く一方

で、商店に川の名前が残っていたり、石

橋の一部が地元の手で大切に保存されて

いたり、地域の奥深い歴史の片鱗に触

れる楽しい体験をすることができました。

最後に、アンケートから参加者の声を

一部ご紹介いたします。

◆消えた筈の川が屋並の中に、道の形状

にしっかりと痕跡を残している。それに

◆川と人間

生活とのか

かわりは大

変貴重な関

係をもつも

のなのに、

次第に埋め

られその存

在が忘れら

れようとし

ている。か

つての住民との共存を思い浮かべるチャ

ンスを与えてくれた。（84才男性）

◆喧騒の街のすぐ裏に示されたのは、か

つての水窪川に落とす排水路の大きな土

管でした。この無用の長物が実は水路の

今に語る貴重な遺構なのだと思います。

いつまでも人々に語り継げるよう残した

いものです。（70才男性）

この他に「谷端川・弦巻川もまた取り

上げてほしい」との声が多くありました。

講座から10年を経た今、水辺の景観がど

う変化したのか、再び歩いて記録してい

く必要があると感じています。（横山）



郷土資料は宝！ 収蔵施設の充実へ向けて

展示室で資料の説明をしている時、入館者の方から次のような質問をいただくことがあります。

「ここで展示した資料は、展示が終わった後、どうするんですか？」

資料は、博物館や区民の方からお借りする場合と、区民の方が郷土資料館に寄贈した資料、つまり当館の所有になったものがあります。ですから、当館所有の資料は、展示期間が終われば収蔵庫の所定の位置に戻して保管し、次の展示の機会を待つこととなります。その後、決まって次の質問にうつります。

「どこにしまおうのですか？」

来館者のなかには、時々このような視点から資料館の運営に関心を寄せる方がいらっしやいます。資料を展示するまでには、資料そのものの調査研究をはじめ、相当な時間と手間を要します。当館では、開館した一九八五年以来、区民の方から資料を寄贈していただてきました。そ

の結果、区の内外に多数の収蔵施設を持つこととなりました。現在、これらの資料は次の場所に分散して保管しています。

勤労福祉会館の七階つまり展示室の隣の収蔵庫、雑司が谷旧宣教師館事務棟の一階、高田小学校美術品収納庫、文化財資料調査室、そして京北倉庫（北区）です。さらに、本年一〇月下旬には、旧平和小学校に収蔵施設が増設されました。これによって、満杯だったこれまでの収蔵庫の中が少し整理されて使いよくなりました（まだ課題はありますが・・・）。

展示室は知っていても、収蔵庫には馴染みがないかも知れませんが、その役割の大切さは正倉院の例をあげるまでもありません。共有財産である郷土資料を良い状態で保管し、後世に伝えられるよう努める責任が、資料館にはあります。そのためあらたな作業が、今、二〇〇〇年を前に始まったことをお伝えします。

【福岡】

□ 編集後記 □

年内に「かたりべ56号」をお届けできて、ひとまず胸をなでおろしております。

いよいよ来年は、二〇〇〇年！
ちまたでは、二〇〇〇年問題は徐々に解決に向けて動いておりますが、郷土資料館の二〇〇〇年は問題が山積です。さて、どうしたものやら。
「伊藤」

★お詫びと訂正★ 前号55号の四頁中段、八〇九行目の「放置」は「報知」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。

か たり べ

No. 56

1999年12月10日発行

印刷／発行

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

☎03-3980-2351